



つながろう

CO・OPアクション情報

2011年12月21日

第9号

◆最後まで、支援を続ける



京都生協・生産と消費を
結ぶコーディネーター
地産地消推進担当
福永 晋介氏

私たちは、宮城県漁協志津川支所が完全に復興するまでの継続した支援を目指しています。カキ養殖の本格復興だけでも3年はかかるそうです。復興したら、今度は志津川で獲れた魚を京都で産直品として売りたい。この交流を途絶えさせずに続けていきたいです。

このボランティアは、私たちだけでは何もできませんでした。ボランティアをしたいと思っても、その入り口を見つけることは簡単なことではありません。それを、みやぎ生協さんの協力により、実現してきました。感謝しています。また、これらの活動費は、カンパ活動や支援朝市などを通じて独自に集めてきました。大変ではありますが、自分たちの活動だという意識を持ち、今後も支援を続けていきます。

宮城・志津川へ、みんなでついたお餅を贈ろう！



京都生協本部では、約90人のボランティアが参加し、5,000個の丸餅を作った。

京都生協職員ボランティアは、宮城県漁協志津川支所への継続したボランティア活動を行っており、11月27日には、京都生協本部（京都市）で「支援餅つき大会」が開催されました。この餅は、12月3日に、志津川支所と同支所の漁師の方が多く移り住む登米市の仮設住宅で行なう炊き出しで配られるものです。

餅米は同生協の取引先で、復興支援活動においても協力関係にある鳥取県畜産農協が「正月には被災地で餅を食べてもらおう」と、地域の子どもたちと一緒に田植えをするなどして思いを込め育てた300kgです。炊き出し当日に南三陸町志津川でつく60kgを取り分け、舞鶴と丹後の会場で60kg、本部で180kgをつきました。本部では約90人の参加者が朝9時から昼過ぎまでかけ、5,000個の丸餅を作りあげました。

会場では、京都周辺に避難されている東北の方々を招いて、つきたての餅がふるまわれました。被災地支援の様子を撮影した映像も流され、京都で暮らしながらも故郷を身近なものとして感じ続けるための工夫も見られました。



登米市の仮設住宅では、約650人が訪れた。

宮城県での炊き出し活動実施

12月3日、京都生協は鳥取県畜産農協とみやぎ生協のボランティアの皆さんと共に宮城県南三陸町志津川にて餅つきを行ない、志津川と登米市の仮設住宅の2カ所で、汁餅やバーベキュー、焼きそばを提供。また、京都でついた餅の配布も行ないました。温かい炊き出しに笑顔がこぼれていました。

◆リレー寄稿
～本格的な生活再建に向けて



消費者信用生協
専務理事 上田 正氏

これまで消費者信用生協（本部：岩手県盛岡市）では、被災者・組合員の皆さまへの生活再建に向けての各種制度の情報提供や、社会福祉協議会等の公的貸付制度で対応できない場合の生活資金の資金需要に対応してきました。また、県の委託を受け、被災遺児・孤児養育者支援事業に取り組み、専門家によるチームを結成し、巡回相談や電話相談事業を行なっています。その他、自殺予防に取り組んでいる秋田県のNPO法人「くもの糸」と共に、中小自営業者の心理的ケアを含めた相談会を釜石市にて定期開催してきました。

被災地では仮設住宅の入居も完了し、本格的な生活再建に向けて取り組みが始まります。住宅の二重ローン問題の解決も大きな課題となることから私的整理ガイドラインを踏まえた債務整理に関する相談体制を強化します。また、雇用・失業に関する相談も増加し、提携しているNPO法人による「これからの暮らし仕事支援室」（パーソナル・サポート）への人員派遣を含め体制と連携の強化、支援をしていきます。

宅配を利用し、被災された方が作った商品を供給

11月18日、いわて生協の共同購入セットセンター（岩手県滝沢村）で、被災された方が作る商品に、バーコードに代わる「商品番号シール」を貼るボランティアが行なわれました。

参加したのは、コープ・ボランティアセンターに登録している7人です。

いわて生協では、被災された方が作る商品をイベントで供給するなど支援を行なってきましたが、より多くの人に利用してもらうために、共同購入（宅配）で供給することにしました。ストラップやバンダナで作った帽子など、18種類の商品に対して、計1,397個、82万2,410円分の注文があり、供給の全額が商品制作者に渡されます。

シール貼りに参加した吉田克彦さんは、「自分がやらなくてはいけないこともきちんとしつつ、月に1度のペースでもいいからボランティアを続けていこうと思っています」と話していました。



1つ1つの商品に丁寧にシールを貼っていく。写真の商品は、手作りのふくろうストラップ。



作った人や商品を受け取るのことを思うと、思わず笑顔がこぼれる。

みんなが集まれる広場を作ろう！



球根を植える参加者たち。100人ほどで植えた。



大きい石を拾って、広場を整備。

11月19日、いわて生協46回目のバスボランティア（以下バスボラ）は陸前高田市広田町で作っている「みんなのふれあいひろば」の花壇作りをしました。

この広場は、家にこもるようになった被災者を心配した地主さんが「みんなが集まれる場所を作りたい」と話したことを、以前から広田町を訪れていたバスボラ参加者が聞き及び、作ることにしたといいます。

約2カ月かけて、がれきを片付け、パークゴルフやゲートボールができる球場を作り、この日はチューリップなどの球根や花苗などを植えました。

いわて生協のバスボラ参加者76人に加え、たまたま近くでボランティアを行っていたコープいしかわ主催のバスボラ参加者の金沢大学学生約30人、仮設住宅にお住まいの20人で、花が咲く春を楽しみにしながら、作業を行っていました。

◆1人じゃない、と伝えたい
～クリスマスカードを贈る取り組み



いわて生協
けせんコープ組合員理事
飯塚 郁子さん

けせん地区では、被災し、仮設住宅に暮らす方以外にも、さまざまな事情があり避難所を早くに出てアパートや貸家に住んでいる方も多くいます。また、なんとか自宅は残ったものの支援を受けられずにいる方や、失業した方、体調を崩した方や、これから生きていくことをどう受け止めればいいのかを不安げに話す高齢の方もいます。

こうした方々に少しでも元気になってほしい。生きることができたことを決して悲観してほしくない。あなたは一人じゃない、誰かがあなたを見守っている事を伝えることができたらいと思い、「クリスマスカードを贈る取り組み」をお願いすることになりました。

多くの方は、被災地支援イコール仮設住宅への支援と思われるかもしれませんが、仮設住宅以外の方もあの日からの苦しみに耐えています。どうか、この状況をご理解いただき、仮設住宅以外の組合員にも心の支援をいただけたら幸いです。

(コープあいちに宛てた手紙より抜粋)

クリスマスカードに思いをのせて

コープあいちでは、「被災された組合員の方へクリスマスカードを贈る取り組み」を行なっています。

この取り組みは、いわて生協けせんコープ組合員理事の飯塚郁子さんが、コープあいちに協力を依頼したものです(左欄参照)。

「年賀状は今年亡くなった方が多いので出す事が出来ないけど、クリスマスカードなら出せる」と、いわて生協けせんコープのこ～ぷ委員が話し合い、急きよ行なうこととなりました。

今回の取り組みでは、「仮設住宅に住んでいない私にも、見守ってくれる人がいる」と感じてもらえることを大切にしたいとのことです。

コープあいちでは、カードを募集し、合計 5,536 枚(12月14日現在)が集まりました。このクリスマスカードは、岩手県陸前高田市、大船渡市、住田町の共同購入(宅配)利用組合員、仮設住宅の皆さんへお届けします。



1つ1つのカードに工夫が凝らされている。



カードは、けせんコープの組合員を含めた83人で折った鶴を添えて届けられる。

被害を受けた方々のため、役立ちたい



「せいきょう便来たよー」と近所に声をかけに行く人も。



買い物に来た子どもと一緒に商品を選ぶ大宮さん(写真奥)。

コープふくしまでは、生鮮品や食料品を積んで毎週決まったコースを巡回する移動店舗「せいきょう便」の運行を11月16日からスタートさせました。車両は、ならコープから復興支援として寄贈されたもので、運営ノウハウは生協共立社(山形県)とみやぎ生協から提供されています。

現在は月曜日から金曜日まで1日6カ所、浪江町、双葉町、飯舘村から避難された方々が住む仮設住宅を中心に巡回しています。コープふくしま店舗部の大宮満夫さんは「もっと停車ポイントを増やして、できるだけ多くの人役に立ちたいです」と力強く言います。また、同生協店舗部の藤田良二さんは、「仮設住宅では個々が孤立しがちだと聞きます。『せいきょう便』が来る時に会える人がいて、コミュニケーションの場をつくることは、生協ができる復興支援の1つなのかもしれません」と話していました。

日本生協連HP「復興支援ポータルサイト」連動企画（奇数号掲載）

フォトルポ 被災地は今

みやぎ生協理事（県北ボランティアセンター長） 春日京子理事×山田省蔵カメラマン

※日本生協連HP「復興支援ポータルサイト」にご寄稿いただいた組合員理事と一緒に現地を歩き、「被災地」の今を写真でお伝えします。（取材日時：12月11・12日、場所：宮城県気仙沼市）



「この銅像は、気仙沼出身の第9代横綱、秀ノ山雷五郎です。周りのものが津波の被害を受けていた中、流されずに力強く『残った』ものです。この銅像のように、負けない気仙沼をつくっていきます」（春日理事・岩井崎にて）

震災から9カ月たった、現在の気仙沼市



大きな通りは復興してきているが、少し中に入ると、津波の被害を受けた姿のまま、復旧が進んでいない。



日本一海水浴場に近いという大谷海岸駅がある気仙沼線は、途切れたまま。「白砂青松」の美しい浜辺も消えた。

「ほっと」できる空間を提供

「ボランティアセンターでは、仮設住宅や集会所で、お茶会や『子育てひろば』を開き、ほっとできる空間を提供しています。先日は、男性の料理教室を行いました。その日作った料理のレシピがほしいと言われたときは、うれしかったですね。忘年会でみんなに食べてもらうのだそうです」（春日理事）



子育てひろばのクリスマス会。輪を投げて、入ったところのプレゼントがもらえる。



手作りのツリー。子どもたちの遊ぶ場所が少なくなった今、こうしてみんなで楽しめる空間は、大切。

「生協らしいなと思うところは、一方的な支援でないところです。企画や、実行など、被災された方も一緒にやっています。自治会長さんと連携して、ニーズを把握し、必要な機関、人につないでいくのが、私たちの役目だと思っています」（春日理事）

復興に向けて



市場は半分が再開。市場を拠点に、復興していきたい。

「一番怖いことは、『忘れられること』です。気仙沼は、負けずに復興します。私たちができることは、やります。できないときは発信しますので、どうぞこれからも変わらず応援してください」（春日理事）



奥に見えるのは「復興屋台村」。気仙沼は、力強く、前に進んでいる。



みやぎ生協理事（県北ボランティアセンター長） 春日 京子さん

春日理事の寄稿文は、日本生協連HP「復興支援ポータルサイト」にて、ご覧いただけます（<http://shinsai.jccu.coop/contents/009/>）。

◆コープこうべ店舗
で仙台白菜を供給



絆フェア

コープこうべは、12月7日、兵庫県と大阪府の64店舗で、みやぎ生協の提携産地野菜を供給する「みやぎ生協“絆”フェア 第4弾」を開催しました。

コープこうべでは、同様の取り組みを今年6月より継続して行っており、この度は、復興のシンボルとなっている仙台白菜を中心に供給し、多くの方が訪れました。

◆女性の悩み相談
コーナー設置



相談コーナー

いわて生協では、マリンコープDORAの店内に7月より「女性の心身の健康相談室」を設置しています。

このコーナーは、行政や、日本助産師会、いわて生協、NPOなどが共同で運営しており、毎週火、木、土曜に助産師が駐在し、毎月末には、関西から心理カウンセラーが5日間駐在しています(いずれも時間は10～17時)。

<復興関連情報一覧>

【岩手県】

いわて生協

- 灯油支援 ● SAVE IWATE 製作「三陸復興カレンダー」案内 ● 震災支援募金・ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」(いわて生協独自では16会場で実施、12/1～)
- 葬祭「セリオ」宮古市消防団合同慰霊祭施行(600名規模、12/10) ● ミニフェスタ開催(大槌町、12/11) ● 原発・エネルギー問題を考える学習会③(12/16)
- 産直真崎わかめ復興支援募金(12/23まで、店舗は12/16終了) ● 歳末コンサート(大船渡綾姫ホール 12/17、グリーンピア三陸みやこ 12/18) ● クリスマスケーキ配達(宮古・釜石・けせん支部共同購入の注文対象、12/24) ● 仮設住宅18か所で年末年始の炊き出し(12/29・30、1/7・8)

【宮城県】

みやぎ生協

- 県内全45店舗で通常開店時間(閉店時間は45店舗中24店舗が通常、11/21～)
- 仮設住宅への灯油配達専用台車導入 ● お父さん支援の講習会(蛇田店、講師・NPO 法人新座子育てネットワーク、12/6) ● 学習会・放射性物質の基礎知識(古川商工会議所、12/6) ● ふれあいお茶会&男の料理教室(気仙沼、12/6) ● 「こ〜ぷのお家いしのまきでいろんなお餅を作って食べよう」(12/10) ● ふれあい喫茶&おさがり市(石巻支部、12/12) ● 仙台市復興計画学習会(12/20) ● トラベル復興企画
- ・こどもスキーツアー企画(12月末発)

宮城県生協連

- 緊急シンポジウム「どうする被災地の地域包括ケア」(介護ネットみやぎ主催)

【福島県】

コープふくしま

- 「せいきょう便」出発式(11/30) ● 日本生協連被災地訪問企画(12/5・6)

福島県生協連

- 福島の子ども保養プロジェクト実施(12/10-11、17-18、1/7以降毎週末実施予定)

【茨城県生協連】

- 放射性物質と農産物講演会(日立市、12/9) ● 宮城ボランティアバス運行

【コープネット事業連合】

- 復興支援金贈呈で被災地訪問(気仙沼・釜石・宮古地区 12/7・8)

【パルシステム連合会】

- 会津若松市内の仮設住宅への買い物と雪かき支援

編集長年末あいさつ

今年は、東日本大震災、東京電力福島第一原発事故など、茫然自失となる出来事がありました。その一方で、全国の生協の支援活動など、協同の力の大きさを知った1年でもありました。生協は、来年も引き続き、被災地への復興支援活動を続けます。皆の力で乗り越えましょう。来年もよろしくお願いいたします。



つながろう CO・OP アクション情報
(次回1月11日発行予定)

発行 日本生活協同組合連合会(会員支援本部出版部)
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ11F
Tel: 03-5778-8183 / Fax: 03-5778-8051
action@coop-book.jp